

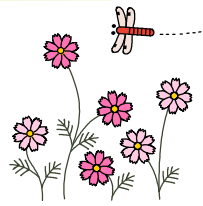


志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
令和2年度学校だより
第7号
令和2年9月30日

「自分にはよいところがある」と言える子どもたちに

りりりりり、ころころころ…夕方になると、一斉に鳴き始める虫たちの声に秋の訪れを感じる季節となりました。2年生の教室からは あ～き(秋)の夜長を鳴き通す～ あ～おもしろい虫のこえ ときれいな歌声も聞こえます。



コロナ禍の中、多くの行事を中止してきましたが、9月20日、秋空の下、運動会を行うことができました。保護者の皆様には、参観カードの提出や受付での検温、ソーシャルディスタンスに配慮いただきながらの立ち見での参観など、多くのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。低学年、中学年、高学年に分かれての競技・演技、プログラムの縮小等、今までにない形での開催となりましたが、子どもたちが「今、できること」を考え、熱心に取り組んだ成果を見ていただけたのではないのでしょうか。応援してくださる皆様の温かい拍手や眼差しに子どもたちの笑顔がはじけていました。

3年生以上の子どもたちは、運動会に向けて一人一人が目当てを立て、練習の度に振り返り、次の練習に向けての思いを書きました。低学年も練習の最後に振り返りを発表し、みんなで交流しました。それぞれが主体的に運動会の練習に参加し、目当てに向かってやり遂げようとする姿を見ることができました。

今年度から取り組んでいる「キャリアパスポート」に運動会后、子どもたち全員が振り返りを書き込みました。多くの6年生が、心に残ったことは「真剣にできたから楽しめたこと」「集団演布の旗を振ったときのバッサという音がみんなと重なったところ」など、一人一人が最後まであきらめずに取り組むことやみんなで心をつにし、力を合わせることによって感じるこのできる心地よさを書いているのを見て、うれしくなりました。本校ではアンケートで「自分にはよいところがある」と答える児童が約7割と決して多くありません。しかし、このような行事に向けてがんばり続ける姿に目を向けさせ、少しでも自分に自信を持たせたいと思います。

学習や運動、様々な活動に絶好の季節。子どもたちが日々の様々な活動に「まじめに」取り組むことの「よさ」を感じ、自分なりの精一杯を尽くすことができるよう、そして、「自分にはよいところがある」と言える子どもたちが少しでも増えるように、教職員一同、チームとして指導し、声をかけていきたいと思えます。また、自ら考え、互いに学びを深める授業づくりに努めるとともに、子どもたちが活躍できる場を作っていきます。保護者の皆様や地域の皆様にも、子どもたちに温かい叱咤激励の言葉をかけていただけるとありがたいです。

校長 小森 昌子
教職員 一同

コロナ禍における「思いやり」



新型コロナウイルス。この誰もがよく分からない、そして誰もが感染する可能性のある感染症がもたらした社会の変化。この状況に正しく向き合い、私たちができることは何か、何をすべきなのかということ子どもたちと考えています。

インフルエンザの流行が心配される時期ももうすぐやってきます。インフルエンザと同じように、新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。もし、感染することは悪いことだという雰囲気できてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて具合が

悪くなくても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに地域で感染が広がってしまうかもしれません。

人々の優しさは、ウイルスとの闘いの強い武器になります。今、わたしたちができることの一つは、感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るように励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えることだと思います。お互いを思いやり、差別・偏見を許さない社会をつくりましょう。

